

Fukuiの魅力 MESSAGE



パッケン
Pack'n

プロフィール

本名パトリック・ハーラン(Patrick Harlan)。福井ブランド大使。1993年来日。1996年まで福井に在住。1997年にお笑いコンビ、パッケンマッンを結成。バラエティや情報番組などで広く知られるようになる。2003年のラスベガスや2007年のハリウッドでは、英語漫才のステージも成功させている。その他NHKの「英語でしゃべらナイト」ではMCを務めるなど、マルチに活躍の場を広げている。現在「Qさま」(テレビ朝日系列)、「カラダのキモチ」(CBC/TBS系列)などに出演中。2009年3月末からGREEにて、トレーニングとダイエットブログを始めた。公式サイト (<http://www.havmercy.co.jp/>)

僕が日本で最初に住んだのは福井県。そう言うと、大体の日本人は「また〜」と、僕がボケていると思ってしまうらしい。信じてもらえても「えっ?何で?!」と驚かれる。福井に失礼だ!と最初思っていたが、同じ話を福井県民にしても「えっ?何で?」と同じようにびっくりされるのだ。

1993年のことだ。幼馴染が大学を卒業する時、「日本に行くけど、来る?」と軽く誘ってくれた。「いいよ。どこ?東京?大阪?京都?」と計画の詳細を聞き出そうとすると、友達は「いや、福井!」と、不明の地名を言い出す。フクイ?!「東京や大阪なんかはもう古い。これからは福井ブームだ!」と説得してきた。僕も納得したが、それから17年経っても、いまだに福井ブームが来ない。

しかし、福井に行かなかったなら僕は今日本にいないだろう。福井で日本の真の良さを知った。説明しよう。

日本の地形は海と山。福井もまさにそう。

西には越前海岸。東には白山連峰。岩場から真っ青の海に飛び込んだ夏の日や、永平寺よりも古い杉の木が聳え立つ幻想的な森で紅葉を満喫した秋の日などの思い出がいまだに色あせない。ロッキー山脈の麓で育った僕は、当

然海にも惹かれるが、福井で新たな山の美しさ、日本の美しさも発見した。

次は食事。福井の食べ物ほうまい!とは僕だけの意見じゃない。リクルートじゃらんのアンケートで「おいしい食べ物が多かった」と答えた宿泊旅客は福井が全国一番。日本人も感動する美味は、大味の国で育った僕にとんでもない感激を与えた。「海の幸」とは新しいコンセプトだった。コロラド州では二種類の魚しか食べられない。「冷凍」と「加工品」。カニはザリガニ。ツナは缶。本物の魚に出合った時、まさに目から鱗だった。さらにお水も、米も、おそばも農作物もおいしい。日本料理は「素材を生かす」がテーマ。ずっと素材を隠し続けてきた僕には斬新な発想だった。

自然がきれいで食べ物おいしい。これがまさに日本的なところでしょう。

一方、日本のイメージにそぐわない面もある。昔、僕が持っていた日本人のイメージは仕事中心の窮屈な生活をしている「働き蜂」。でも、福井で見たのは仕事も私生活も充実している人ばかり。釣り、キャンプ、スキー、テニスなどの趣味を週末も平日も楽しんでいるし、世帯当たりの自動車所有台数は福井が日本一だけあって、みんなマイカーで自由に行動している。後々東京で暮らして、やはり働き蜂もいることがわかったけど、日本人はこんなにゆとりのある生活をしているんだ!とまず福井で驚いた。

そして福井の人たちは何よりも家族を大事にしている。子供の面倒をよくみるし、子供向けの施設も多い。実は福井の出生率は全都道府県で二番目に高い。「雪国の冬は子

作りしかすることないだろう」と思われちゃうかもしれないけど、一番は沖縄なので、それが原因じゃないみたい。夫婦共働きでお父さんが子育てに積極的な家族も多い。女性の社会進出も福井が全国一。これもアメリカ風で好きだけど、その一方、日本ならではの良さも保っている。全国でみれば、三世代で同居している人はわずか8.6%のところ、福井は20.2%。子供が毎日おじいちゃん、おばあちゃんに会えるのは実にうらやましいこと。どこの誰もがしたいと思うけど、福井なら家族中心の生活ができる。

その家族愛とゆとりのある生活は他人に対する余裕をも生み出すようだ。福井県民は暖かい。マナーも愛嬌もいいが、表面だけの付き合いではなく、友達はお互いの家に遊びに行ったり、家族に会ったりして、ちょっとした親戚扱いになる。それに慣れたら、東京では主流の、お店での「現地集合、現地解散」がとても冷たい付き合いにしか感じなくなるのだ。

福井は沖縄について二番目の長生きを誇る長寿の国だとか、AERAの住みやすい都道府県ランキング一番だとか、カーブミラーの販売数が日本一だとか、まだまだ自慢したい点がいっぱいあるけれど、我慢しよう。我慢じゃなくて、ここで言いたかったのは、僕の人生にとって意外な展開ではあったけど、アメリカ人でも福井に住んだら日本の良さがわかるってこと。僕は福井で日本に惚れた。そこで日本に残り、ジャパニーズドリームを追うことにした。皆さんにも、もう一回福井を見直してほしい。忘れかけていた日本の魅力はまだそこに生きているのだ。

越前海岸(写真:遠藤徹也)